

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

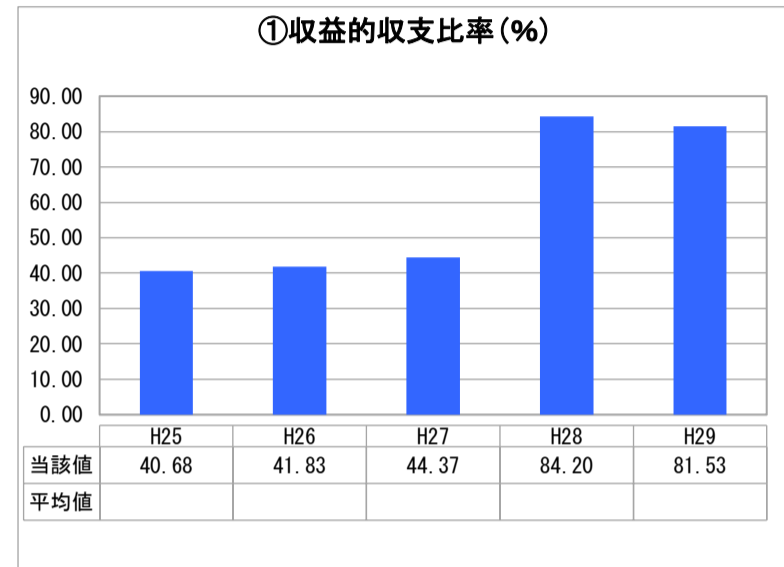
福井県 永平寺町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	29.24	83.83	2,484

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,779	94.43	198.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,456	1.81	3,014.36

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



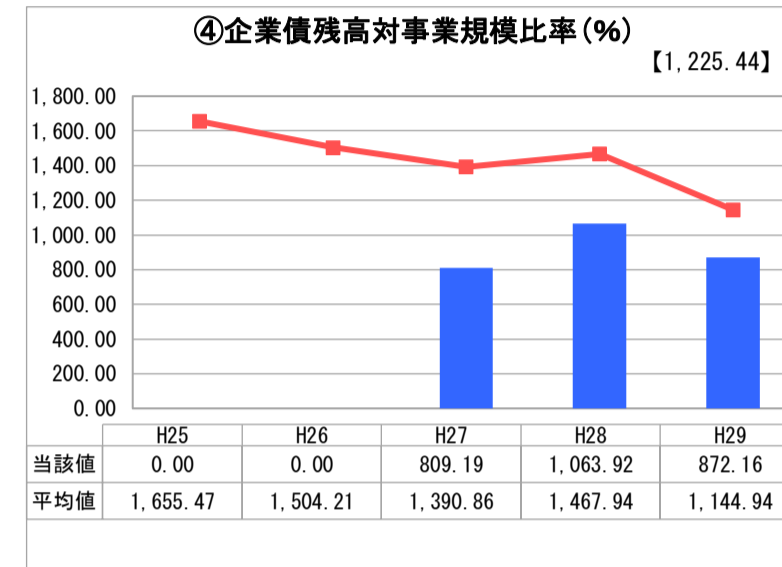
「単年度の収支」



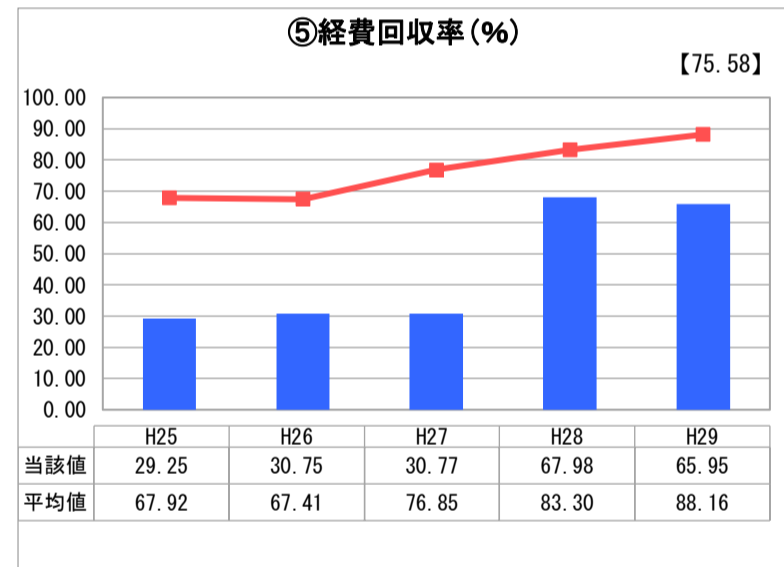
「累積欠損」



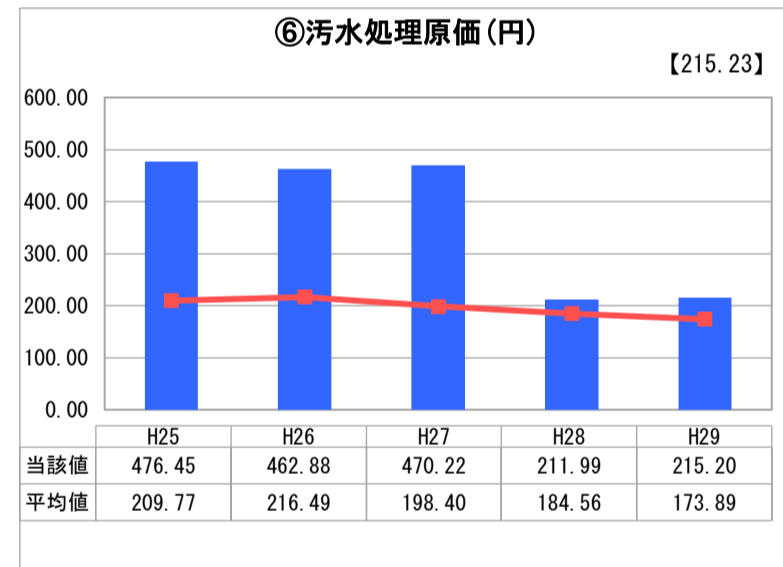
「支払能力」



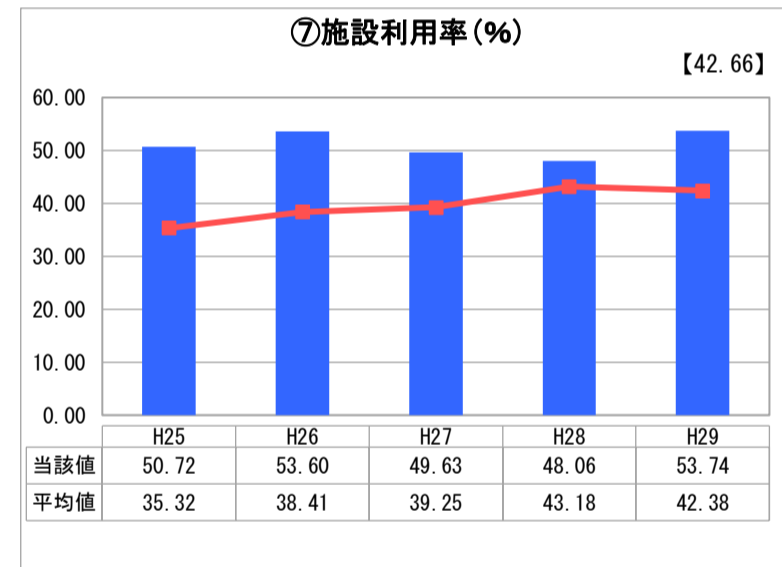
「債務残高」



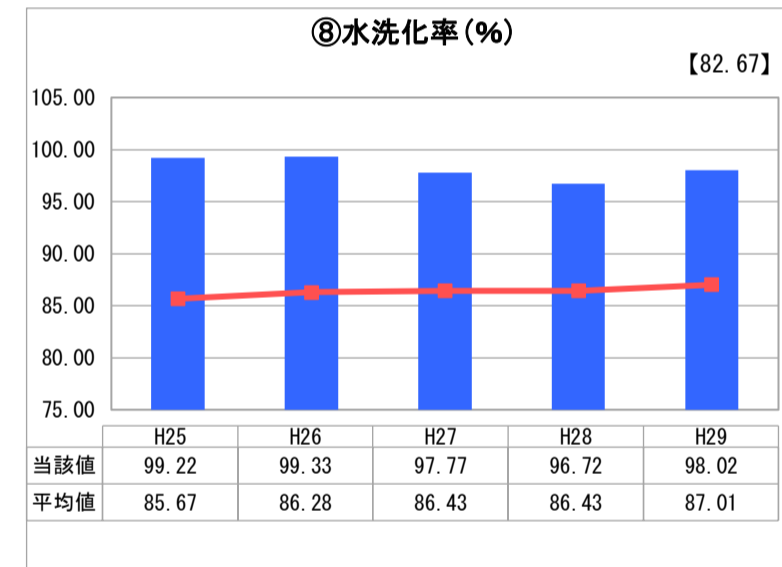
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

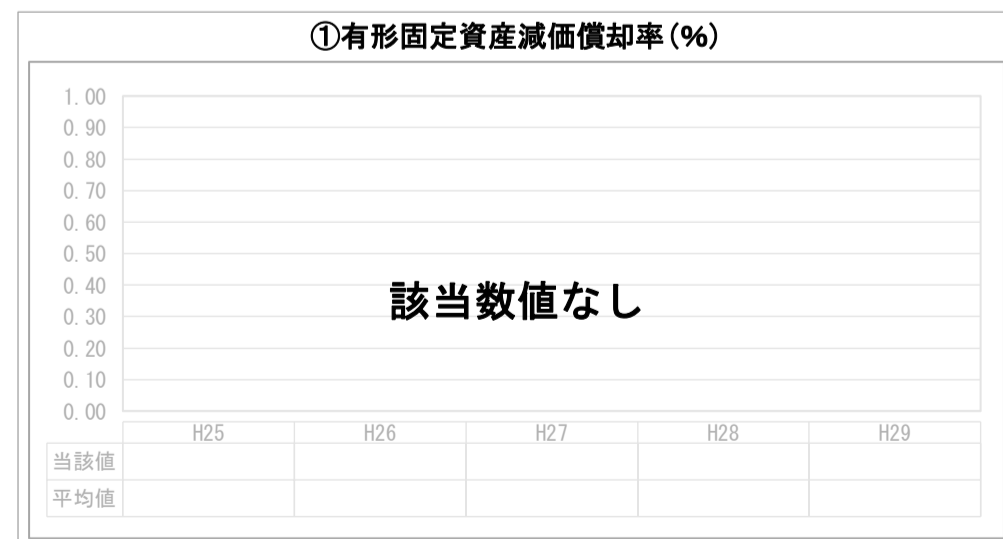


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

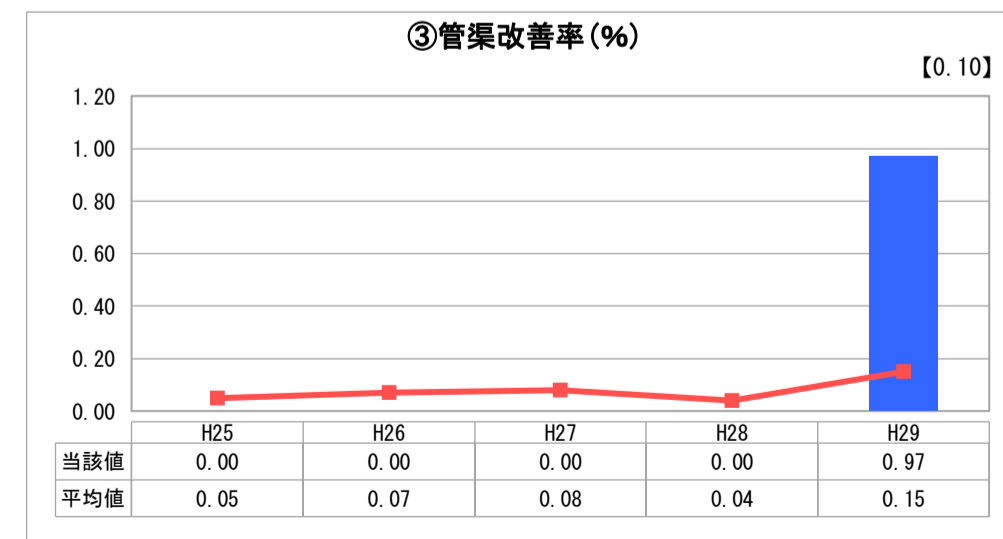
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率は、100%未満であり、資本費のほぼ全てを一般会計繰入金に依存している状況であるため、使用料収入による財源確保等の経営改善に向けた取組が必要である。
- ④企業債残高対事業規模比率は、施設整備が終了しているため、類似団体平均を下回っている。今後、施設老朽化に伴う更新等により値が上がることを予想される。
- ⑤経費回収率は、区域内人口の減少に伴う料金収入減により低下傾向にある。依然、100%を下回る状況の中、汚水処理費抑制のため処理区の統合を進めているところであり、料金改定を行う必要もある。
- ⑥汚水処理原価は、類似団体平均と若干上回っており、処理区の統合など維持管理費の更なる削減に努めていく。
- ⑦施設利用率は、50%程度で推移している。今後の処理区統合による数値変動を注視し分析していく。
- ⑧水洗化率は、類似団体平均を上回っている。今後も100%を目指し、接続の推進に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

- 当町の特定環境保全公共下水道事業は、昭和55年4月より志比処理区で、昭和62年4月より中央処理区で供用を開始している。志比浄化センターは供用開始から38年、中央浄化センターは31年経過しており機械設備等の更新時期を迎えつつある。
- 特に志比浄化センターにおいては老朽化が著しいため、経営の効率化の観点から汚水処理を廃止し、中央処理区への統合事業を平成27年度から実施し、平成30年度末で廃止予定である。
- 現在は、施設、管渠とも更新・老朽化対策は実施していないが、長期的な視点で中央浄化センターの改築、長寿命化等について下水道施設統計画基本方針策定業務の中で検討を行い、財源確保も含めて適切に対応していく。

### 全体総括

- 当町の特定環境保全公共下水道事業は、資本費のほぼ全額を一般会計からの繰入金に依存している状況が続いている。また、中央浄化センターの改築、長寿命化等の大規模更新事業を予定しており、その更新投資等に充てる財源確保が求められている。このため、料金体系の見直し、維持管理費の削減、他事業との施設統合など、財政基盤強化を図りながら、経営健全化に努める必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。